

甕島商船株式会社

新造船 結 Line こしき就航 船名を一般公募で命名、快適な船旅で港を結ぶ

春の足音を感じる穏やかな日となった 3 月 14 日、鹿児島県の西部に浮かぶ甕島と、いちき串木野市を結ぶ新造カーフェリー「結 Line こしき」の就航記念式典が、串木野新港で開催された。同航路では旧船「フェリーニューこしき」が一日 2 往復、観光客や地元住民にとって欠かせない重要な交通手段として長年にわたり活躍してきたが、船の老朽化が進み、より快適な船旅を提供するため新たに「結 Line こしき」が建造された。

「結 Line こしき」は、従来の船よりもさらに快適な船旅を実現するために設計され①客室の快適性向上=新しいシートやスペース設計で長時間の船旅でも快適に過ごせる②環境に優しい設計=省エネルギー対策や最新の環境技術を導入し、よりエコな運航が可能になった③揺れにくい構造=最新の航行技術を採用し、船酔いしやすい人でも安心して乗船でき、快適な船旅を約束する。

式典は地元の華やかな伝統芸能「串木野さのさ」に始まった。次に美根晴幸代表取締役社長から「本船の建造に携わった方々に深く御礼を申し上げる。船名の通り、本船が甕島をつなぐ船舶として、利用客の方々と共に在り続けていくことを願っている」とあいさつした。続いて九州運輸局長や来賓各位の祝辞が披露された。

式典当日は関係者向けの内覧会も行われ、翌 15 日から 16 日には一般向けの体験クルーズと内覧会が実施された。お披露目では新造船の素晴らしい設備や内装に、船内を見学した人たちや初めて船に乗るという子どもたちから、驚きの声が上がった。

新造船「結 Line こしき」は総トン数 1110 トンで、船名は 1103 通の一般公募から選ばれ「2020 年に開通した上甕島と中甕島を結ぶ甕大橋によって甕島がひとつになり、本船が甕島と本土を結ぶ役目を担う」という意味が込められている。

客室は旅客定員を少なくすることで、ゆとりのある空間を生み出し、ペットルーム・授乳室・キッズルームなど多様化する旅客のニーズに応えているほか、振動と横揺れを抑える構造が、快適な船旅を約束している。

船内委員長の日高慶次一等機関士は「新造船の構想段階から乗組員の要望を取りまとめ、さまざまな経緯を経て本日に至ることができ、感慨深い」と語った。

「結 Line こしき」は 3 月 20 日に就航し、甕島に住む島民の生活を支え、さらに島と本土の橋渡し役としての航海を続けていく。こらからの活躍が期待されている。

「海員だより」